

春 告 草

第 92 号 平成 30 年 1 月 31 日 進路指導部発行

センター試験を振り返る（第2回）

いよいよ私大入試が始まる。入試受験の間も現役生は力を伸ばしていけるので、6年生にはとにかく頑張っていって欲しい。5年生、4年生の皆さんには心より先輩の皆さんへ応援のエールを送ってもらいたい。

さて、センター試験を振り返る・2回目は出題内容をまとめておこう。今回の資料はベネッセを参考にした。

科目	今年の出題傾向		来年に向けて
国語	<p>評論で図に関する対話の問い、古漢で対話形式の問題文が出題。難易は昨年並 問題文の分量は全体として昨年と同程度。昨年同様、文章全体の展開や主題を把握する力が求められた。評論で図に関する対話形式での設問が、古文・漢文で問答・対話形式の文章が出題され、全体に「言語活動の充実」を意識した出題であった。難易は昨年並。</p>		<p>センター試験では、傍線部付近の部分的な理解だけでなく、表現や論理展開から問題文全体の趣旨・主題の理解を問う設問が出題されている。細かな部分の読みとりだけでなく文章全体の構成・展開を把握したうえで、選択肢を丁寧に吟味する習慣を身につけよう。</p>
	配点	<p>第1問 現代文・評論 有元典文・岡部大介『デザインド・リアリティー集成的達成の心理学』による(50点) 第2問 現代文・小説 井上荒野「キュウリいろいろ」(50点) 第3問 古文 『石上私淑言』(50点) 第4問 漢文 李燾『続資治通鑑長編』による(50点)</p>	
英語筆記	<p>物語が日誌形式に。内容を大づかみする力が引き続き求められた SF風の物語が日誌形式で出題され、グラフや広告、論説など、素材や目的に応じた読み方が引き続き求められた。主題の特定など全体の概要を問う問題が出題され、英文の内容を素早く大づかみする力が、昨年同様求められた。難易は昨年並。</p>		<p>試験では長文の占める割合が高く、ここ数年は、英文の概要を問う出題が多くなっている。日頃から長文読解の基礎基本となる語彙や文法の力をつけるとともに、多様なジャンルの英文に触れ、要点を押さえながら読むスキミング力を身につけよう。</p>
	配点	<p>第1問 発音・アクセント(14点) 第2問 文法・語彙語法・語句整序・応答文完成(47点) 第3問 不要文指摘・発言要約 (33点) 第4問 データ読み取り(図表・広告)(40点) 第5問 長文読解(物語)(30点) 第6問 長文読解(論説)(36点)</p>	
英語リスニング	<p>実践的な英語力に加え、音声と文字情報の同時処理が鍵。昨年より難化 音声情報とイラストを含む文字情報(地図)を組み合わせる問題や、討論の場面が出題されるなど、引き続き実践的な英語力が求められた。形式は昨年踏襲ながら、選択肢に工夫がなされた問題、複数情報の整理が必要な問題も多く、昨年より難化。</p>		<p>や状況を推測して応答を選ぶ問題から、概要把握力を要する問題、音声と文字情報を組み合わせる解く技能融合型の問題まで、幅広い力を求める出題がされている。多様な場面設定の英文の聞き取りや、情報を素早く整理・取捨選択する練習の積み重ねが、得点アップの鍵である。</p>
	配点	<p>第1問 短会話・Q&A選択(12点) 第2問 短会話・応答文選択(14点) 第3問 会話/地図と対話文(12点) 第4問 モノログ/話し合い(12点)</p>	
世界史B	<p>文章選択問題が増え、地図などの資料問題は減少。地域網羅性は維持された 地域網羅性は継続され、周辺地域からの出題も多くみられた。4択の文章選択問題が昨年から大幅に増加した一方で、年代整序問題はみられなかったほか、地図問題の出題は1問にとどまった。また、昨年までみられた日本史と関連させた問題はあまり出題されなかった。昨年同様グラフを読み取って判断する力も求められたが、オーソドックスな内容が中心で、難易は昨年並。大問構成や解答数は変更なし。</p>		<p>センター試験では、例年、あらゆる時代・地域・分野から、基本事項を中心に問題が出る。教科書で強調されている重要事項を中心に、図説の地図と年表も活用して、出来事が「いつ」「どこで」「どのように」「なぜ」起こったのかを意識しながら、理解を深めていこう。</p>
	配点	<p>第1問 世界史上の帝国や王朝の支配(25点) 第2問 宗教や宗教集団(25点) 第3問 世界史上の都市とその建造物(25点) 第4問 人の移動と戦争との関わり(25点)</p>	

科目	今年の出題傾向	来年に向けて
日本史B	<p>史・資料読解の必然性が増し、思考力が求められた。難易は昨年並</p> <p>大問数、解答数に変更はなく、日本史Aとの共通大問は例年通り2大問出題された。所与の史・資料を読み取り解釈する力が引き続き重視された。また、第1問のテーマは2年連続で主題学習の「地域と歴史」だった。全体的な難易は昨年並。</p>	<p>昨年に引き続き、1設問のなかでテーマに沿った幅広い時代や分野から出題された。これに対応するためには、歴史用語を暗記するだけではなく、時代や分野を縦断的・横断的に捉えて学習しよう。その際、歴史事項の因果関係や関連する事柄をテーマに沿って整理していくことが大切。</p>
	<p>配点</p> <p>第1問 観光資源としての地域の歴史 (16点)</p> <p>第2問 原始・古代の国家・社会と音楽との関係 (16点)</p> <p>第3問 中世から近世初期までの地震とその影響 (16点)</p> <p>第4問 近世の外交・思想・宗教 (16点)</p> <p>第5問 幕末から明治維新にかけての軍制改革と西洋医学 (12点)</p> <p>第6問 石橋湛山と近現代の歴史 (24点)</p>	
地理B	<p>身近な素材を含めた多彩な資料が用いられ、地理的考察力が問われた</p> <p>限られた時間の中で多くの図表を正確に読解する力と、地理的な見方・考え方が求められた。スマートフォンやムーミンなど受験生に親しみやすいものが素材として扱われたほか、比較地誌がこれまでの2か国から3か国の比較となった。基本的事項を問う問題が多く、昨年より易化した。</p>	<p>各分野の重要事項や原理・原則をしっかりとおさえ、それを活用して論理的に類推・考察する演習を繰り返す。そして、見慣れない資料などをを用いた問題が出題されても、これまで学習した内容と結びつけて考えることで、攻略の糸口をみつける対応力を培っておこう。</p>
	<p>配点</p> <p>第1問 世界の自然環境と自然災害(17点)</p> <p>第2問 資源と産業(17点)</p> <p>第3問 生活文化と都市(17点)</p> <p>第4問 西アジアとその周辺地域の地誌(17点)</p> <p>第5問 ノルウェー、スウェーデン、フィンランドの比較地誌(14点)</p> <p>第6問 岐阜県高山市の地域調査(18点)</p>	
倫理	<p>組合せ問題の数や選択肢の文章量が減少し、標準的な問題が増加</p> <p>大問構成や出題分野は変更はしたが、解答数が1個減少した。組合せ問題の数や選択肢の文章量が減少し、基本的知識が丁寧に問われた。現代思想ではセンやウィトゲンシュタインの思想が問われた。難易は昨年より易化。</p>	<p>リード文を丁寧に読み、その内容をしっかりと把握して問題に取り組むことが大切。また、思想家の基本的な用語の意味内容の理解はもちろん、より精緻な読解力も求められるので、資料読解問題などは類題演習を積んで、日頃から慣れておくことが大切です。</p>
	<p>配点</p> <p>第1問 人道や福祉は利己的か利他的か(28点)</p> <p>第2問 古代における善き生の模範(24点)</p> <p>第3問 日本における教えるという営み(24点)</p> <p>第4問 人間にとっての遊びの意義や役割(24点)</p>	
政治・経済	<p>戦後史の知識を用いる出題が目立ち、資料読解に時間を要した</p> <p>「倫理、政治・経済」との共通の設問が4大問中3大問で出題された。基礎的事項を問う出題の中で、知識に基づいて統計資料を読み取る出題もみられた。また、年代整理問題も出題され、教科書の基礎的事項についての深い理解が求められた。昨年より難化。</p>	<p>基礎的な事項をおさえておけば解答できる問題が中心に出題された。まずは着実に学習を積み重ね、基本を身につけておこう。また、基礎的な事項をもとに考察する力が求められるので、各事象について関連する知識や資料と結びつけながら学習しておくことが大切です。</p>
	<p>配点</p> <p>第1問 国家の役割と憲法の役割(28点)</p> <p>第2問 ニクソン・ショックが与えた国際経済や国際政治への影響と日本(24点)</p> <p>第3問 国家間、地域間、個人間の格差の考察(24点)</p> <p>第4問 日本における男女共同参画の現状と課題(24点)</p>	
倫理、政治・経済	<p>倫理は基本事項、政経は現代的課題への考察を要求。難易は昨年より易化</p> <p>すべての設問が単独科目「倫理」および「政治・経済」と共通。倫理分野では問題量が微減し基本事項の理解、政治・経済分野では基本事項の理解を中心に資料読解が問われた。正答を判断しやすい問題が増加し、全体的な難易は昨年より易化。</p>	<p>「倫理」と「政治・経済」の両科目ともに、本番までに十分な学習を積み上げておこう。重要語句の理解にとどまらず、関連する事項まで意識的に学習することが必要。資料から考察する問題も散見されるので、類題などに取り組み、資料のポイントを整理していこう。</p>
	<p>配点</p> <p>第1問 人道や福祉は利己的か利他的か (14点)</p> <p>第2問 日本における教えるという営み (18点)</p> <p>第3問 人間にとっての遊びの意義や役割 (18点)</p> <p>第4問 国家の役割と憲法の役割 (22点)</p> <p>第5問 国家間、地域間、個人間の格差の考察 (14点)</p> <p>第6問 日本における男女共同参画の現状と課題 (14点)</p>	
現代社会	<p>現代の諸課題の出題が増加。今年も写真問題、趣旨問題が出題された</p> <p>大問内や設問内で各分野を融合的に問う問題がみられた。昨年に続き、写真を用いた問題やリード文の内容把握を問う問題が出題された。思考力を必要とする問題や時事的な知識を要求する出題もあったが、基本事項の知識を求めている問題が中心であり、難易は昨年並。</p>	<p>基本事項の正確な理解が求められる。用語の名称だけではなく、法律や条約などの内容や成立の背景、経済理論の仕組みなどをおさえておこう。普段から社会の動きに関心を持って、時事的な知識を取り入れる習慣をつけておこう。</p>
	<p>配点</p> <p>第1問 地域における六次産業化の課題(22点)</p> <p>第2問 18歳選挙権と政治参加(14点)</p> <p>第3問 現代社会におけるデータ活用(22点)</p> <p>第4問 ロボットの進歩と私たちの課題(14点)</p> <p>第5問 新自由主義の政策とその影響(14点)</p> <p>第6問 地球環境問題における各国の議会の役割(14点)</p>	

大学入試ガイド(4)

Road to University

4回目は私立大入試について解説します。

私立大学の入試では多種多様な選抜方法が実施されています。受験者数の減少が背景にありますが、名称だけでは分かりにくい入試制度もあるので、ここではそれらの基本的な仕組みについて学習しておきましょう。

私立大一般入試のスケジュール

国公立大学と同様、私立大も選抜方法は大きく分けて3つあります。すなわち、一般入試、AO入試、推薦入試の3つです。AO入試、推薦入試は、国公立大と合わせて別号で解説しますので、ここでは一般入試に限定して解説していくことにしましょう。

まず、4～5月頃から入試概要、そして7月上旬からは募集要項（願書）の発表・交付が始まる。募集要項の配付時期は各大学によって異なり、だいたい9～11月がピークとなる。大学によっては、入試概要で発表した科目・配点などを一部変更して、募集要項やホームページで発表する場合もある。いずれにしても必ず募集要項やホームページで最終確認しよう。

入試は、センター試験後の1月下旬から、まず関西地区を中心に本格化し、2月中旬には首都圏を中心に最盛期を迎える。3月には後期入試、2期募集などが実施されるが、3月下旬には大半の私立大で入試は終了する。

私立大一般入試の出題科目

センター試験利用入試を除く私立大一般入試の科目を見てみよう。英語は「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ」を課す大学が多い。国語は「国語総合のみ」または「国語総合、現代文B、古典B」を課す大学が多いが、「国語総合（古文・漢文を除く）、現代文B」を課す大学も見られる。地理歴史は日本史・世界史・地理の各B科目が圧倒的。理科では、「基礎・発展」1科目が多く、難関大や医学科では「基礎・発展」2科目を課すところが目立つ。数学は、文系では数学Ⅰ・Aや数学Ⅰ・Ⅱ・A、理系では数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bや数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bなどを課す大学が目立つ。

なお、私立大一般入試で小論文を課すところを受験する場合は対策が必要となる。

科目数は、各大学のメインともいべき一般入試は、難関大を中心に基本的には3教科型。近年では2教科（選択）型も増加している。

文系だと、英語、国語必須に地歴・公民・数学から1科目選択が主流。2教科型は英語・国語型、あるいは英語必須＋他教科1科目選択。または任意の2教科選択など。

理系は、英語・数学・理科の3教科が基本で、2教科の場合は英語・数学科型、数学必須＋英語・理科から選択、などがある。

複線入試の主流は「センター利用」

私立大には「複線入試」といって、同じ大学の学部・学科に、A日程・B日程など複数の選抜方式があつて、試験日が重ならなければ併願できるという入試方式がある。

複線入試には、一般的な3教科入試の他に、センター試験利用入試や2～1教科入試、得意科目重視型など様々なタイプがある。

複線入試の主流といえるのはセンター試験利用入試だ。

この入試方式は、個別試験を行わずセンター試験の得点だけで判定するケースが多いが、個別試験を課してセンター試験の成績と総合して判定したり、センターと個別試験の両方を受験し、いずれか高得点の方で判定したりするケースもある。

私立大のセンター試験利用入試のメリットは、国公立大との併願がしやすく、センター試験の受験だけで複数の私立大を受験できることだ。国公立大志願者にとってはセンター試験対策がそのまま私立大対策になるので人気も高く、同じ大学・学部でもセンター試験利用入試は一般入試より

センター試験利用入試の科目・配点例

センター試験のみ
立教大ー社会[センター4教科型] 外(200)・「数・理から1」(100)・国(200)・ 「地歴・公から1」(100)[4教科4科目]
早稲田大ー政治経済 英(200)・数2(200)・国(200)・理1(100)・ 「地歴・公から1」(100)[5教科6科目]
センター試験＋独自試験併用
中央大ー法・法律、政治[センター試験併用型] (センター)英(100)・国(200)・ 「地歴・公、数学、理から2」(200)[4教科5～6科目] (独自)英(200)
早稲田大ー文化構想、文[センター試験プラス] (センター)「地歴・公、数学、理から1」(50)[1教科1～2科目] (独自)国(75)・英(75)

難易度が高くなる。だが、センター試験利用入試の合格者は募集人員の10倍程度出すのが普通なので、戦略を立てて挑戦したい。

受験機会が増える「全学部日程」

いわゆる一般入試は、学部・学科ごとに異なる問題を使って異なる日程で試験を行う。これに対して全学部日程入試では、全学部や複数の学部・学科が、共通の問題で、同じ日に一斉に試験を行うため、1回の受験で複数の学部を併願することが可能になる大学が多い。

さらに、学部ごとの試験とは別の日に行われるので、同じ学部・学科を2度受験することが可能になるほか、併願校との日程重複も回避しやすくなるメリットがある。

日本大や明治大、同志社大のように、大学所在地以外の試験会場を全国の主要都市に設けて「全学部日程」を実施するところもあり、受験生には好評のようだ。

併願に便利な「試験日自由選択制」

試験日自由選択制とは、同一の学部・学科で複数の試験日が設定され、受験生がその中から試験日を自由に選んで受験できる入試制度のこと。2～3日の連続する試験日が設けられることが多い。例えば2017年入試の立命館大の全学統一方式の文系の試験日は2月1日から4日まで4日連続、同じく理系（薬を除く）でも2月2日・3日両日の試験日を設けている。

この入試制度のメリットは、すべての試験日で同じ学部・学科を受験できたり、併願校の試験日との重複を避けられたりして、併願の可能性を広げられることだ。

得意が活かせる「得意科目重視型」

得意科目重視型というのは、事前に申請した得意科目の配点に一定の倍率が掛かって評価される方式のこと。例えば得意科目として申請した国語で90点（100点満点）を取ったとする。仮に倍率が2倍なら、国語の得点は180点として換算されることになる。

また、3教科受験が必須だが、そのうちの高得点2教科で合否判定されるといったケースもある。いずれにしても自分の苦手科目をカバーできて、自分の得意科目を活かすことができる入試制度だ。

ネット出願（ネット割）が拡大

最近インターネットを利用した出願（ネット出願）を導入する大学が増えている。2017年入試では私立大の過半数292大学でネット出願が実施され、2018年入試ではさらに実施校は増えている。導入1年目は紙の願書と併用してネット出願を行っていたが、2年目、3年目は紙を廃止し、ネット出願へ完全移行（紙の願書を廃止）している。ネット出願に伴い受験料を割り引く「ネット割」を実施している。2017年一般入試では、慶應義塾大・立教大・早稲田大など全65大学がネット出願を新たに導入したが、今後ますます利便性の高い出願方法として、ネット出願は定着していくことだろう。

成績優秀者への経済的支援

入試で優秀な成績を収めた者は「特待生」や「給費生」として、学費を免除（減免）されたり、返還不要な一定の金額を支給してもらえる大学もある。入学後も学業成績が良ければ、同種の特典が用意されることがある。志望校でこうした制度が導入されているかをチェックしてみよう。

近隣で受験可能な「学外試験会場」

「学外試験会場」とは、大学のキャンパス以外の場所に設置されている試験会場のこと。これを利用すれば遠隔地の志望校まで出向かずに、地元や近隣で受験ができる。移動に伴う体力的・経済的（宿泊費・交通費）負担が軽減され、精神的にもリラックスできる。首都圏受験生にはメリットがないようにも思えるが、地方私立大を受験するケースもある。このような制度があることは知っておきたい。

明治大・商学部の複線入試の例

全学部統一入試(2/5) 英(200)・国(150)・「地歴・公・数から※1」(100) ※2科目受験した場合は高得点科目を採用
センター試験利用入試(前期日程・3科目方式) 国語(200)・外(200)・「地歴・公・数・理より※1」(100) ※高得点科目を採用
センター試験利用入試(前期日程・4科目方式) 国語(200)・外(200)・「地歴・公・数・理より※2」(200×2) ※高得点科目を採用
センター試験利用入試(前期日程6科目方式) 国語(200)・外(200)・数学ⅠA(100)・数学ⅡB(100)・理(100)・「地歴・公から※1」(100)※高得点科目を採用
商学部個別入試(2/16) 英語(150)・国語(100)・「地歴、公民、数学から1」(100) ☆英語4技能試験利用方式との併願は不可
センター試験利用入試(後期日程) 国(200)・数(200)・外(200)・ 「地歴、公民、理科から※1」(200) ※高得点科目を採用